

令和6年度 大田区立大森第十中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年2月28日

・教育目標：①心身ともに健康な生徒 ②自ら学び、解決する生徒 ③自他を大切にし、鍛え合い、高め合える生徒
・特色ある教育活動：①平和教育を通して学ぶ国際教育・人権教育 ②基礎学力の定着(ICT活用) ③生徒の主体的な活動とボランティア精神の向上 ④健康教育の充実 ⑤特別支援教育の推進
・指導の重点：①「確かな学力」の定着と学ぶ授業(「タラント活用」) ②生徒の主体的、対話的で深い学びでの授業実践 ③言語活動の充実

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
生予個 き測別 困目 力難標 をな1 育未 成来 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標1に関する質問項目1～3における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。	4: 80%以上	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標1に関する質問項目1～3における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。 生徒が学習に興味・関心をもてるように、教員はデジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いて教材を提示している。また、生徒はデジタルツールを用いて互いに積極的に意見を交換したり、実験等の協働する体験活動の結果や成果を考察してまとめる取組を実施している。ICT機器を効果的に取り入れることで、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」を実践していることによるものとする。	A	9	・STEAM教育で、十中は運動会のポスター等、Artも取り入れている。Artは教養も含まれていると思うが、これからもSTEAM教育に力を入れてもらいたい。 ・教育目標にある生徒たちに育っていると思う。 ・特に中学校時代は自分の特性を見いだし、将来の職業にまでつながる重要な時期だと思えます。STEAM教育も重要ですが、読書や道徳教育にも力を入れて、選択の幅を広げていただきたいものです。 ・STEAM教育に高い評価。今後生徒があらゆる課を自ら見つける力、物事を解決する力、新しい価値を創造する力を身に付けるように指導願います。期待しておきます。 ・まだ完成されていない中学生は、学校生活の中で様々な問題を抱えたり、失敗を経験している中で、教職員は可能な限り親身に対応されており、将来への教訓に繋がっていると感じる。 ・様々な学習ツールを効果的に活用しながら生徒の主体的な学びをサポートしており、一人一人の力を大切にしながら育成している。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: 60%以上		B	0	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 40%以上		C	0	
						1: 40%未満		D	0	
お世個 お界別 たと目 標な2 うが 人 国際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標2に関する質問項目4～6における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。 生徒が学習に興味・関心をもてるように、教員はデジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いて教材を提示している。また、生徒はデジタルツールを用いて互いに積極的に意見を交換したり、実験等の協働する体験活動の結果や成果を考察してまとめる取組を実施している。ICT機器を効果的に取り入れることで、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」を実践していることによるものとする。	4: 80%以上	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標2に関する質問項目4～6における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。 生徒が学習に興味・関心をもてるように、教員はデジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いて教材を提示している。また、生徒はデジタルツールを用いて互いに積極的に意見を交換したり、実験等の協働する体験活動の結果や成果を考察してまとめる取組を実施している。ICT機器を効果的に取り入れることで、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」を実践していることによるものとする。	A	8	・英語で日本の文化伝統や歴史などを外国人に説明できる語学力を身に付けてもらいたい。そのためには、国語・社会など他教科を学ぶことも重要と考える。今年度から修学旅行で長崎を訪れて、平和や人権を学んだことは大変良かったと思う。 ・修学旅行の場所変更はとても良いと思った。 ・これから更に国際科・多様性の時代となるため、その中で活躍できる人材教育に力を入れていただきたいものです。 ・英語の実践的なコミュニケーション能力を高めることで様々な新しい機会や可能性が広がり、国際的な仕事に参加しやすくなることを期待します。また、英語を話せると、多くの国の人々とコミュニケーションできます。これからの活躍に期待します。英語を通じて、異なる文化や価値観を学び、理解を深めるように期待しております。 ・生徒による習熟度は違うと思うが、成績とは別に、将来に向けて英語がどのくらい割当てられているのか、興味がある。大田区初の羽田空港を利用した長崎修学旅行など、大田区在住を意識した先進的な試みは素晴らしいと思う。 ・各学年で様々な体験活動等の機会をつくり、我が国の文化・伝統を大切にすることや国際的な視点を育てている。今後も多角的な視点から思考を深め、心を育む学習ができるように期待しています。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: 60%以上		B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 40%以上		C	0	
						1: 40%未満		D	0	
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 性力と を能力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標3に関する質問項目7～10における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。 生徒が学習に興味・関心をもてるように、教員はデジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いて教材を提示している。また、生徒はデジタルツールを用いて互いに積極的に意見を交換したり、実験等の協働する体験活動の結果や成果を考察してまとめる取組を実施している。ICT機器を効果的に取り入れることで、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」を実践していることによるものとする。	4: 80%以上	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、個別目標3に関する質問項目7～10における肯定的な評価の割合によって成果の評価を行う。 生徒が学習に興味・関心をもてるように、教員はデジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いて教材を提示している。また、生徒はデジタルツールを用いて互いに積極的に意見を交換したり、実験等の協働する体験活動の結果や成果を考察してまとめる取組を実施している。ICT機器を効果的に取り入れることで、物事を論理的に、また、科学的根拠に基づいて思考するなど、「主体的・対話的で深い学び」を実践していることによるものとする。	A	9	・2019年より道徳が特別の教科として始まったが、教科としての評価はどの様に行うのか、また、教科としての導入後に生徒たちに変化はあったのか知りたい。 ・道徳教育は大事なことで、社会生活にも繋がる。家庭内で話題にして対話の場をつくってほしい。 ・道徳はこれを教えたらよいという答えはないと思います。まさに多様化する価値観の中で、重要性は増すと思います。公開授業として取り上げていただきたいです。 ・他人の立場や気持ちを理解し、共感する能力が高まることで豊かな人間関係を築くように期待します。 ・道徳の授業などでは物事や事象に関しては様々な視点から見ることにより、それぞれの立場による感じ方や違いなどを学んでおり、朗読や音楽、映像を用いて教員は工夫を行い、生徒たちを指導していた。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: 60%以上		B	0	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 40%以上		C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1: 40%未満		D	0	

